福島県立梁川高等学校
令和元年１１月６日
校長だより
知性　誠実　責任
第　４６　号

■　創立百周年記念式典

１１月２日（土）に、式典日和の晴天のもと、福島県立梁川高等学校百周年記念式典が厳かに執り行われました。

一同起立

国歌斉唱

校長式辞

実行委員長あいさつ

県教育委員会教育長あいさつ

県知事祝辞

感謝状贈呈

在校生代表あいさつ

県議会議長祝辞

伊達市長祝辞

閉式のことば

会場全景

【在校生代表あいさつ】

半田山の木々もしだいに色づきはじめ、秋の気配の感じられるいま、梁川高等学校創立百周年記念式典に臨み、在校生を代表して挨拶をさせていただく機会を得たことをたいへん光栄に思います。これまで、長く培われてきた本校の伝統に思いを馳せながら、本日の式典に在校生として参列することができましたことを喜び、ここにいる仲間たちとともに心に刻みたいと思います。

本校は今から百年前の大正8年、1919年に「梁川町立実科高等女学校」としてこの梁川に誕生しました。当時の社会は第一次世界大戦が終了したばかりで、6月にはベルサイユ条約が締結されています。翌年の1920年には梁川出身の三浦弥平選手がベルギーアントワープオリンピックにマラソンランナーとして出場しています。

その後昭和22年までは、中学校を併設するなどしながら女学校として多くの卒業生を輩出してきましたが、昭和23年に共学化し、現在の福島県立梁川高等学校となりました。その後昭和41年にはいま私たちのいる体育館が完成し、落成記念式典ではたいそうの模範演技などが披露されたそうです。昭和58年にはそれまでの文化祭が「梁華祭」と改称されました。「梁（りょう）」は梁川の「梁（やな）」から、「華（か）」は校章にもなっている桜の「華（はな）」から名付けられたそうです。

このような歴史を経てきた梁川高校ですが、少子化の影響から、年々在校生も減少し、現在では各学年2クラスの小規模校になってきています。しかし、近年地域の方々からの評価は高くなってきています。現在の梁川高校は地域との交流を積極的に行い、1学年の総合的な学習の時間ではボランティア活動にも取り組んでいます。学校の近くの「寿デイサービス」さんにおじゃまをしてお年寄りの方々の前で合唱を披露したり、「希望の森公園前駅」のホームや駅舎周辺のゴミ拾いなど清掃活動をしたりしました。

2学年ではインターンシップを実施し、地域の企業などを訪問して職業体験をさせてもらっています。実施後には下級生に対し体験報告会を行い、次年度への意欲を高め、普段の学習や日常生活の過ごし方などについて考えてもらうなどの活動を行っています。

また、1学年は「伊達のひみつづくり」、2学年は「地域課題探究学習」を行い、伊達市や梁川町のことをよく知ろうという調査学習にも積極的に取り組んでいます。

先日は全校を挙げて台風19号の被害を受けた梁川町内のお宅を片付けるボランティア活動も行いました。泥をかぶった家具を洗ったり水没したものを廃棄するお手伝いしたりなどする活動をしながら、困ったときはお互いさまという言葉は、こういう時に使うのだなと実感しました。私は耳が不自由なご夫婦のお宅にお邪魔しました。体が不自由な方々は災害時はより大変な思いをなさっていたのではないかと思います。

こうした活動を通じて本校の校訓である「知性・誠実・責任」という3つの目指すべき目標が、私たちの心に深く刻まれてきているのを感じます。「学業にしっかり取り組む生徒になろう」「仲間や周囲の人たちに誠実に向き合い、大切にしよう」「任された仕事をしっかりとやり遂げる人間になろう」こうした気持ちが、3年間で身についてきました。

私たち3年生は、卒業まであと半年を切ってしまいましたが、こうした学びを胸に、残された学習の時間を無駄にしないよう学業に専念していきたいと思います。1・2年生には、勉強はもちろんですが、梁川高校のよい伝統を引き継ぎ、部活動やボランティア活動、文化祭や体育祭などの学校行事にも尽力してほしいと思います。

これからの梁川高校は、私たちが卒業した後、ほどなくして保原高校と統合してしまいます。しかし、それまでは、在校生のみなさんには梁川高校として立派に活躍していってほしいと思います。また、統合した後も、新しい高校として生まれ変わり、初心に戻ってまた輝かしい実績を作っていってほしいと思います。その際は、梁川高校としての歴史も、語り継いでいってもらいたいとも思います。

創立百周年を迎えた今、新しい気持ちを持ってさらなる百年へと、今までの伝統と歴史を受け継いでいき、たゆまぬ歩みを続けていきたいと思います。

在校生代表　結城亮太